

2020年2月22日『上にあるものを求めなさい by アミール・ツアルファティ』

アミール・ツアルファティ

- 上にあるものを求めるとは、どういう意味か？どのような影響を及ぼすか？ -

<https://youtu.be/OgDU2I3t-aU>

今朝のメッセージのタイトルは、次の通りです。『上にあるものを求めなさい』これは、もちろんコロサイ人への手紙3章の最初の2節です。

もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。

(コロサイ3章1節から2節)

祈りましょう。

お父様、私たちはあなたのみことばに感謝します。今、あなたが聖霊の力によって、私たちの目が開かれ、私たちの耳が、今朝、みことばを通して御霊がおっしゃることを聞こえるようにしてください。今朝、私たちが分かち合うものが、あなたからのものとなるようにしてください。あなたが、ご自分の子どもたちに語ってくださいますように。あなたに感謝し、あなたを祝福します。

イエスの御名によって。

アーメン

まず最初に、その章が、条件付きの質問で始まるのが、はっきりと分かります。それは、「天にあるものを求めなさい」と単純に言ってはいません。それはしないでください。あなたが真の信者でない限りは。つまり、彼は「もし」と始めます。「あなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、[それならば]天にあるものを求めなさい」パウロはコロサイ人に手紙を書いて、こう言っています。

「いいですか。この集まりには、たくさんの方がいます。私は、あなたがた全員に語っているわけではありません。たぶん、この中の一部の皆さんに…」

調査によると、教会に来る人々の70%以上は、新生もしていないと言われています。だから私は今、この聖句の初めにある条件に従う人たちに話しています。だから、皆さん全員ではありません。皆さんの一部だけです。それが皆さん全員だったらいいのと思います。しかし、彼が「もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、」と言ったときに、彼がどういう意味で言ったのかを理解するためには、第2章に戻らなければなりません。12節からです。聖書はこう言っています。11節から始めます。

キリストにあって、あなたがたは人の手によらない割礼を受けました。(コロサイ2章11節)

心配しなくていいですよ。いえいえいえ、聞いてください！私がそう言うのは、当時、1世紀にパウロに従っていた人々の一部が、肉の割礼について言っていたのです。イエスを信じたいなら、すべての異邦人が受けなければならないと。だから、パウロは明確に言っています。「違う、違う、違う。手によるものではない。霊的な割礼のことを言っているのだ」と。そして、彼は言います。

肉のからだを脱ぎ捨て、キリストの割礼を受けたのです。(コロサイ2章11節)

そして彼は、こう言います。

あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ、(コロサイ2章12節)

彼はバプテスマを受けた人々のことを言っています。それから、彼はこう言います。

また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです。（コロサイ2章12節）

だから、物理的に死んで、死者の中からよみがえられたのはキリストで、バプテスマを受けることで、その死と復活において、あなたは彼と一体化しているのです。そして、パウロはこう言います。

あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなくして死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦し、（コロサイ2章13節）

要するに、彼はこう言っています。この部屋に座っているすべての人の死は、罪の性質と関係があります。この地球上には、「新生した人」として生まれた人はひとりもいません。それが分かりますか？私たちは、すでに罪の中に生まれています。つまり、「見て。ああ、この子はとても純粋で、なにも悪いことはしていないわ」何も間違ったことをしていない赤ちゃんを、ひとりでも見せてください。私たちは、いつも彼らを正します。なぜなら、彼らは、とても、とても反抗的ですから。私は彼らを非難するわけではありません。彼らも私たちが生まれながらに…。ダビデは詩篇51編で言います。

罪ある者として母は私をみごもりました。（詩篇51編5節）

罪が世界に入り、今それは代々…。聖書は、それについて話しています。最初のアダム以来、罪が世に来ました。それが問題です。罪のない状態で生まれることはできません。罪のない人生を生きることにはできません。あなたが、この肉にある限り、あなたには問題があります。その罪は死をもたらし、その死は、あなたの肉に現れているのです。なぜなら、私があるあなたに20年前のあなたの写真を見せたら、あなたは死にかかっています。それを、あなたの顔の隣に持ってきたらいいでしょう。さて、あなたはその過程を停止するために、自分の体に何でも注入することができます。しかし、あなたは死にます。あなたが何十億ドル持っても、それでも、スティーブ・ジョブズは亡くなりました。（スティーブ・ジョブズ：アップルコンピュータの創業者）聞いてください！死が罪の報酬です。それは、「私はだれかを殺したから、死刑になる」とか、あなたが死に値することを何かした、というようなものではありません。しかし、罪を犯したのです。どんな罪でも、罪が死をもたらしただけです。その死は避けることができたでしょう。もしも、アダムとエバが（創世記）3章で、蛇が彼らに言ったことに耳を傾けていなければ、しかし私があなたに理解してもらいたいのは、ここに良い知らせがあるということです。あなたがまだこの卑しい体にいる間に、一聖書はあなたのからだを「卑しい体」と呼んでいます。—あなたが、まだこの体にいる間に、まだ、衰えてゆく体にいる間に、あなたはすでにその死から、よみがえることができるのです。ただ、キリストを信じることによって。いいですか。キリストが肉体において死ななければならず、復活したお方です。あなたは信仰の告白として、バプテスマを受けるだけでいいのです。バプテスマそのものは、あなたを救うことはありません。これは、ただ内側で行われたものを、外に向けて告白するに過ぎません。しかし、彼は言います。ご覧なさい。本当に信じて、新たに生まれ変わって、御霊に満たされている皆さんは、あなたは今生きています。その死からよみがえって、あなたは生きています。だから彼は（コロサイ人への手紙）3章を次のように始めるのです。

こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、（コロサイ3章1節）

もし、あなたが新生しているのなら、もし、あなたが御霊で満たされているのなら、あなたが古い生き方をすべて捨ててしまったなら、では、大事な話をしましょう。では、信者の生き方がどのようにあるべきかを教えてあげましょう。さて、彼は非常に興味深い方法で、上を指して、「ほら、見上げなさい」と言っています。イエスがおられるところを。イエスは、ここにはいない。彼の御霊は、ここにいます。どこにでも。しかし物理的には、彼は今、御父の右に座っています。聖書が、そう言っています。ステパノは、イエスが、そこに立っているのを見たのです。天が開いて、彼が見上げると、そこにイエスが見えたんです。それは興味深いです。なぜなら、見上げることは、とても、とても聖書的です。ピリピ3章14節。

キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。
(ピリピ3章14節)

詩篇121編1節

私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのだろうか。(詩篇121編1節)

山からではなく、主からです。しかし、主に向かって叫ぶために、上に向かうんです。イザヤ40章26節。

目を高く上げて、だれがこれらを創造したかを見よ。この方は、その万象を数えて呼び出し、一つ一つ、その名をもって、呼ばれる。この方は精力に満ち、その力は強い。一つももれるものはない。

(イザヤ40章26節)

ダニエル4章34節。聖書によると、ダニエルが祈っていると、

その期間が終わったとき、私、ネブカデネザルは目を上げて天を見た。(ダニエル4章34節)

その王、そのひどい王に、神は教訓を教えました。最終的には、見てください。

私は目を上げて天を見た。すると私に理性が戻って来た。それで、私はいと高き方をほめたたえ、永遠に生きる方を賛美し、ほめたたえた。その主権は永遠の主権。その国は世々限りなく続く。

(ダニエル4章34節)

地上最大の帝国の王が、野生の獣と一緒に暮らさなければなりません。ついには、彼が顔を上に向け、神を認めるために。信者の人生は、決してこんなふうであってははいけません。常に、周りで起こっていることを気にして、「だれが何をしているの?」「だれに?」「どこで?」「どうやって?」「これを見て」「彼がやったんだ」「彼は君のことを、そう言っていたよ。どうするの?」「これはどう?」「それは?」すべて、そういった些細なことです。信者の人生は、そういうものではありません。それは信じない人の人生です。もしかしたら、教会に行っている人かもしれません。でも、信じていない人です。聖書は言います。ヨハネ11章で、イエスご自身さえも祈ったときに…。聖書にあります。

そこで、彼らは石を取りのけた。そして、イエスは目を上げて、『父よ、わたしの願いを聞いてくださったことを感謝いたします。』(ヨハネ11章41節)

すごいです。使徒の働き1章10節。イエスは終えられた時、

イエスが上って行かれるとき、弟子たちは天を見つめていた。すると、見よ、白い衣を着た人がふたり、彼らのそばに立っていた。(使徒の働き1章10節)

弟子たちが、みんなイエスと一緒にいると、イエスが言いました。「見なさい。私は行かなければならない」弟子たちは、「はい?」。すると、彼らは見えています。彼らの目はずっと上まで行きます。ほおー！彼らはそれまで生きてきて、そのようなものを見たことがありませんでした。皆さんはありますか?皆さんも、それに見入ってしまうでしょう?「いったい、どうなっているんだ?」

「携挙はない」というクリスチャンがたくさんいますね?なぜでしょう。「だれも天に引き上げられることはできない」本当ですか。それなら、聖書のほかの部分も、たくさん拒絶しなければならなくなります。エリヤもエノクも、さらにはイエスご自身も。彼らはあまりにも驚いて、こんなになっていました。(上を見上げて、ポカーンと…) 2人の御使いは、こんなふうです。彼らは周りを見まわして、「ガリラヤの人たち、何を見ているんですか?これと同

じイエスが、またおいでになります。同じありさまで」うわあ。とにかく、彼らは見上げたんです。今日の教会には、あざける者たち、あざ笑う者たちがとても大勢います。彼らは、私たちが引き上げられるという考えを拒絶します。彼らは、もしかしたら、イエスが上げられたという考えさえも拒絶します。
第2ペテロ3章3節から4節。

まず第一に、次のことを知っておきなさい。終わりの日に、あざける者どもがやって来てあざけり、自分たちの欲望に従って生活し、次のように言うでしょう。『キリストの来臨の約束はどこにあるのか。先祖たちが眠った時からこのかた、[つまり、死んだときから]何事も創造の初めからのままではないか。』

(第2ペテロ3章3節から4節)

彼らの目は上を向いていません。彼らの目は周りを見まわしています。「何事も同じまだ」それが、パウロが変えようとしていることです。ユダ1章17節から19節。

愛する人々よ。私たちの主イエス・キリストの使徒たちが、前もって語ったことばを思い起こしてください。彼らは…。(ユダ1章17節から19節)

ところで、それは使徒の必要条件の一つです。イエスの時代に生きていた人で、イエスを見た人です。聖書の中で使徒に任命された人は皆、イエスの時代に生きて、イエスに会ったか、パウロのように啓示によってイエスに会い、さらには3年間、イエスから教えを受けました。それまでです。だから、皆さんの中に「ああ、私は新しい使徒です」と言う人がいたら、それは違います。そして、聖書はこう言っています。
私たちの主イエス・キリストの使徒たちが、あなたがたにこう言いました。

『終わりの時には、自分の不敬虔な欲望のままにふるまう、あざける者どもが現れる。』(ユダ1章18節)

いいですか。皆さんが目を上に向けないと、「これがすべてだ」と思います。人生とは、こんなものだ。そうになると、あなたは聖い生き方をしません。なぜなら、何も期待できませんから。楽しみにできるものは、何もない。聖さを必要とするものは、何もありません。あなたは何も期待していません。あなたは何も探していません。

この人たちは、御霊を持たず、分裂を起こし、生まれつきのままの人間です。(ユダ1章19節)

私は、なんて言いましたか？彼らは私たちの中にいますが、彼らは御霊を持っていません。彼らは、信者ではありません。でも、彼らは教会に行きます。彼らは献金します。彼らは「ハレルヤ」と言います。そして、彼らは家に帰ったら、天にある事らについて考えることさえしません。いいですか。私たちには、別の国籍がある事を思い出さなければなりません。アメリカの市民権を得るためにアメリカの国境に侵入しようとする人が、たくさんいることを知っています。率直に言って、私は彼らのことが理解できません。この国が向かっている方向を見ると、共産主義や社会主義から逃げてくる人々は、まもなくここで、それに遭遇するでしょう。いえいえ。しかし私が言いたいのは、聞いてください。私が言いたいのは、私たち全員が、イスラエル人でも、アフリカ人、ヨーロッパ人、ロシア人、何にせよ、私たちが皆覚えておかなければならないのは、あなたが新たに生まれ、御霊に満たされているなら、あなたが信者になった日、あなたはパスポートを提出し、新しいものを受け取ったのです。それは、あなたの天の国籍です。そして天の国籍を持っている人は、関心のすべて、考えることのすべて、そして慕い求めていることはすべて、天国の事からだけです。ピリピ3章20節。

けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。(ピリピ3章20節)

非常に多くの信者たちは、この世界で裕福に、楽に生活しています。彼らは熱心に待っていません。私がシンガポールに行ったときに、大きな教会の長老のひとりが、美しいメルセデスベンツで私を迎えに来ました。私は後ろに座っていて、「うわー、すごい。いろんなボタンがついている…」すると、彼が言いました。「アミールさん、神は私を

とても祝福してくださっている。私は、今年はずごくお金を稼いだ。私は今、最高に素晴らしい豪邸を建てているんだ。正直なところ、とにかく素晴らしいから、イエスがすぐに戻って来なくても構わない」私は、「なんだって!？」あなたはシンガポールと、過去2000年間、神が天国であなたのために準備されているものを比較するのですか？ 第1ペテロ1章4節。

また、朽ちることも汚れることも、消えていくこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。

(第1ペテロ1章4節)

それが、あなたが慕い求めるべきものです！それが、あなたに属するものです！さて、私たちが覚えておく必要があるのは、まず第一に、私たちが求めなければならないものがいくつかあります。私たちが上にあるものを求めるなら、どういふものですか？

ひとつめは、私たちがまだ生きている間にある復活です。まず第一に、私たちは理解する必要があります。(上にあるもののことを) 考え、天に思いをはせる信心深い人々になるためには、私たちは、まだ生きている間に復活を果たさなければなりません。あなたは新生し、御霊に満たされなければなりません。そうでないなら、あなたがたは決して、天国思考になることはありません。それが最初のことです。

コロサイ3章1節から2節。

もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。(コロサイ3章1節から2節)

私たちはキリストと共にいることを切望するべきで、私たちはキリストのようになることを切望しなければなりません。私たちは、主が来て、私たちと一緒に連れて行ってくださるのを、待ち望まなければなりません。地上の物事ではなく、上にあるものを熱望するのです。コロサイ2章13節から14節。私たちは、すでにそれについて話しました。ピリピ3章20節。

私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。(ピリピ3章20節)

皆さん、イエスご自身です。ヨハネ15章19節。

もしあなたがたがこの世のものであったなら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではなく、かえってわたしが世からあなたがたを選び出したのです。それで世はあなたがたを憎むのです。

(ヨハネ15章19節)

どんなキリスト教信者でも、自分が福音を伝えるときに、世界が自分を受け入れ、敬愛し、自分の信仰のために自分を受け入れ、愛してくれると考える人は…、ブブーッ。あなたが世に伝えているメッセージが内容を薄めた骨抜きのものでない限り。イエスが唯一の道、真理、いのちではなく、罪が言及されることすらなく、罪の報酬である死、そして地獄が、そのメッセージに含まれてもいないなら、それなら、「いいでしょう。私たちはあなたを愛しましょう。」「それなら、あなたは私たちの牧師になることができます。」「それなら、私たちはスタジアムのような大きな教会を建てましょう。」「それなら、あなたはこんなふうにも話してもよい。」回転する地球を背景に。「そして、あなたは美しいチャンポン、いえ、素晴らしい国際的ミニストリーになれます。」そして、あなたの教会に来る人々は、聖書を持ってくる必要さえありません。なぜなら、あなたは聖書を説かないから！モチベーションを上げる話し手？ 「はい！万事、問題なし！」 「あなたはこの人生を最大限に生かすことができる！」 イエスが次のように言っているのは、聖書に1節もありません。「この人生は、あなたがしっかり握って、最大限に活用しなければならないものだ！」

ローマ8章34節。

罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしてくださるのです。（ローマ8章34節）

使徒の働き7章55節

しかし、聖霊に満たされていたステパノは、天を見つめ、神の栄光と、神の右に立っておられるイエスとを見て…
(使徒の働き7章55節)

上にあるものを求めてください。主が、イエスが、上におられます。天が開いたときに、ステパノはそれを見たのです。使徒の働き1章9節から11節。私たちは、もうこれを読みましたね。

『ガリラヤの人たち。なぜ天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。』
(使徒の働き1章9節から11節)

だから、まず第一に、もちろん私たちは覚えておかなければなりません。私たちがまだここにいる間、キリスト志向の人々になることを。いいですか。イエスは天におられます。私たちは、このひどい世界に住んでいる間、主と共にいることを切望するのです。

2番目に、私たちが楽しみにすることは、教会の携挙です。私たちは、主が来られて、私たちが主と共におらせるために、私たちが連れて行ってくださるのを熱心に待ち望みます。なぜか？なぜなら、主が約束されたからです。

「聖書には、それが見つからないぞ」最後に聖書を読んだのはいつですか？まず第一に、コリント15章に書かれている事実は、あなたの体が…。ご自分の体に触ってください。皆さん、全員、指でつまんでください。皆さんが今つまんでいるのは、死にかけている体です。それは死に向かっています。「いいえ、薬を飲んでください。結構です！」

「レーザー治療や整形手術をしに行ってください。結構です！」でも、あなたは死にかけています。さて、私が伝えたいのは…、いいえ、体を鍛えに行くといいですよ。見栄えがいいです。心配しないで。でも、あなたは死にます。あなたは健康に死ぬでしょう。でも死ぬんです。しかし、私は皆さんに伝えたいことがあります。聞いてください。私は皆さんに言いたいことがあるのです。この死にゆく体は、天国に行くことができません。なぜなら、あなたは、まだ罪の影響を持っているからです。天国に達することはできません。物理的に天国に行くことはできません。この体は、その罪のために地上の物に服し、重力のために地球に引きつけられます。あなたは、この体で天国に到達することはできません。したがって、あなたが天国に達したいのなら、まず何が起らなければならないと思いますか？この体が…、ハレルヤ！変わらなければなりません。聖書は第1コリントで言っています。

第1コリント15章51節から53節。

聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。（第1コリント15章51節）

奥義は秘密ではありません。それはずっとあったのですが、私たちは、いままでそれを理解していなかった。

私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな、眠ることになるのではなく

言い換えれば、私たち全員が死ぬわけではありません。

変えられるのです。（第1コリント15章51節）

あなたが生きていても死んでいても、イエスが、あなたを天に召されたら、あなたは変わらなければなりません。さて、今日死ぬ人はどうなるのでしょうか？信者は、彼のたましいが天国のイエスの元に行きます。死ぬことは…、覚えていますか？生きることは？（キリスト）そして、死ぬことは？（益です）そして、イエスはあの男に何と言いましたか？「今日、あなたはわたしと共にいます」だから、あなたが死ぬとき、あなたは主のもとに行きます。あなたの霊は主のもとに行き、あなたの体は、ここに残ります。そして11ヶ月後には、何も残っていません。骨だけです。し

かし何が起こるのかというと、天国で主と共にいるために、その死んだ体と再び結合するなら、死んだ人々の体でさえ、何とか変わらなければなりません。考えてみてください。彼は言います。

聞きなさい。わたしはあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな、眠ることになるのではなく、変えられるのです。終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。

(第1コリント15章51節から52節)

あのラッパを覚えていますか？

ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。

(第1コリント15章52節)

それは同じ体ではありません。「チョット待って、おれは毎日、体を鍛えたんだ」すみませんね。ご希望なら、今それを楽しめばいいですが、天国では？新しい体です。

朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならないからです。

(第1コリント15章53節)

第1テサロニケ4章。同じラッパです。思い出してください。最初に復活する同じ死者です。

第1テサロニケ4章16節から18節。

主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に生き残っている私たちが、[聖書は何と言っていますか？]たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、(第1テサロニケ4章16節から18節)

「うーん、それは空想的に聞こえる…」それが聖書にあることです。「私たちは、一挙に引き上げられ、」と聖書は言っています。なんと？

彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。(第1テサロニケ4章17節)

地上ではありません。私たちは、(ここで)イエスに会うではありません。あなたが真の信者であるならば、あなたはイエスが地上に戻って来られるのを待つではありません。主が地上に戻ってくるのを期待する地球上で唯一の国は、イスラエルです。なぜなら、主が戻って来て、物理的にオリブ山の上に足をつけられることは、彼らが救われることを意味しますから。ゼカリヤ書にあるとおりです。しかし、私は皆さんに知ってほしいのです。第1テサロニケ4章16節から18節。

次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。(第1テサロニケ4章16節から18節)

だから信者は、その希望を持っていなければなりません。信者は、その期待を持っていなければなりません。その切望。ここにとどまってイエスが戻って来るのを待つのではなく、そうでなく？変えられて引き上げられ、空中で主と会い、主と共にいることを。ここでは患難が続く間に。第2コリント5章8節から10節

私たちはいつも心強いのです。そして、むしろ肉体を離れて、主のみもとにいるほうがよいと思っています。

(第2コリント5章8節から10節)

ほらね？

そういうわけで、肉体の中にあると、肉体を離れていようと、（第2コリント5章9節）

あなたが生きていようと、すでに肉体を離れていようと、つまり、「死んでいようと、生きていようと」。

私たちの念願とするところは、主に喜ばれることです。なぜなら、私たちはみな、[天国にある]キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあった行為に応じて報いを受けることになるからです。

（第2コリント5章10節）

第1コリント3章11節から15節

というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。もし、だれかがこの土台の上に、…（第1コリント3章11節）

いいでしょう。それについては後でお話ししますが、聞いてください。私たちが引き上げられて、イエスに会うとき、ある事が起こるのです。ヨハネ14章1節から3節。

あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。（ヨハネ14章1節から3節）

イエスは言いました。「見なさい、わたしはあなたを残して行きます。あなたがたはこの地上に残り、わたしは父の家へ上がっていきます。わたしはそこであなたがたのために場所を備えます。それから、わたしは戻って来て、あなたがたを連れて行きます。

「ああ、わたしは彼がここに戻ってくると思っていた」

いいえ。あなたが真の信者なら、合流する場所は…メモを見なかったのですか？合流する場所は、ここではありません。雲の中です。

「どうやってそこに行けばいいんだ？」

さて、あなたはまず変えられなくてはなりません。

「どうやって変えられるんだ？」

あなたはまず、信者でなくてはなりません。新生し、御霊に満ちた…そうしたら、あなたは変えられます！

「まあ、俺はそんなの信じない」

だから、あなたは変えられないのです。聖書は言っています。ヨハネ14章1節から3節。

わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、…（ヨハネ14章3節）

そしてなんと？彼は「わたしはまた来て、あなたと一緒にいよう。そして、あなたの用意ができるまで待とう」とは言っていない。そうではなく、彼はこう言いました。

また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に…（ヨハネ14章3節）

主は、どこにおられますか？御父の右です。

あなたがたをもおらせるためです。（ヨハネ14章3節）

ここで住所を変更するのはだれですか？私たちです。「あなたがたがいるところに、わたしもいる」とは、彼は言っていない。主は言われました。「わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです」

「まあ、俺は携挙を信じていない」それなら、あなたは聖書を信じていないのです。それはそこに書いてあるのです！
 「わたしには、あなたの教えは受け入れがたい！」ほかにも教会はたくさんありますよ。
 聞いてください。みことばを教えるか、教えないかのどちらかです。けれど、「私はみことばを教えるが、これらのことばは無視する」とは言えません。そこにあるのです。さて、皆さんが理解しなければならないのは、教会が言及されていない点です。地上における患難のことを語っている黙示録全体の中で、教会は19章でしか言及されていません。黙示録19章7節から9節。

『私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時が来て、…（黙示録19章7節）

私たちは天にいます！

花嫁はその用意ができたのだから。（黙示録19章7節）

私たちが、その花嫁です！

花嫁は、光り輝く、きよい麻布の衣を着ることを許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行いである。』
 （黙示録19章8節）

御使いは私に「小羊の婚宴に招かれた者は幸いだ、と書きなさい」と言い、また、「これは神の真実のことばです」と言った。（黙示録19章9節）

ほうー。黙示録3章10節は、なぜ私たちが患難の間、ここにいないのか、その理由を教えてください。

あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。（黙示録3章10節）

「わたしは、あなたに試練の時を通過させるつもりはない。わたしは、来たるその時から、あなたを遠ざける」と、彼は言いました。第1テサロニケ5章9節から11節。

神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、（第1テサロニケ5章9節）

神の怒り、憤り。ダニエル書は、その7年間全体のことを語っています。1週間、最後の週、ダニエル9章の第70週は、イスラエルのためのものです。イスラエルは患難を通過します。彼らの救いを得るために。韻を踏んでいます。
 (Tribulation -- Salvation) (トリビュレーション--サルベーション) (患難--救い)

ですから、…互いに励まし合い（なさい）。（第1テサロニケ5章11節）

彼は言います。「見なさい。あなたがたは、神の御怒りに会うように定められてはいません」

「まあ、私は患難後携挙を信じている」

ほんとですか。患難の後に携挙されることに、どんな意味があるのですか。患難の後、主はここに戻って来られます！
 まあ…、聞いてください。要は、あなたがどんな状態で天国に到着したいか、です。レアか、ミディアムか、ウェルダンか。（ステーキの焼き加減）いいですか。私はウェルダンの（よく焼けた）状態で天国にたどり着きたくありません。

「じゃあ、あなたは逃避主義者だ」

もちろんです。あなたは、患難を逃れたいと思いませんか？ありがたいことに、主は私たちを、そこから出してくださいます。聖書はヘブル9章27節で述べています。

そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている。(ヘブル9章27節)

ヨハネ3章17節から18節

神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者はさばかれない。(ヨハネ3章17節から18節)

でも、お待ちください。

信じない者は…すでにさばかれています。(ヨハネ3章18節)

覚えていますか？私たちは罪の中で生まれました。私たちは、すでにさばかれています。この「すでにさばかれています」状態からあなたを取り出す唯一のものは、あなたが信じる時です。その時から、あなたはさばかれません。だから、信者でない人はだれでも、すでにさばかれています！「だが、だれも私にイエスのことを教えてくれなかった」あなたには、全く言い訳がありません。ローマ1章を読んでください。被造物が、神のことを語っています。聖書は言っています。もうひとつ、あなたが楽しみにするべきことは、もちろん、あなたがキリストのさばきの御座に着いた時に起こる事です。ローマ14章10節。

なぜ、あなたは自分の兄弟をさばくのですか。また、自分の兄弟を侮るあなたのですか。私たちはみな、神のさばきの座に立つようになるのです。(ローマ14章10節)

私たちはそこに着くと、そこに立つことになります。しかし、信者たちのさばきと、信者でない人へのさばきの違いは何でしょうか。信者ではない人たちは、終わりに罰を伴うさばきを受けます。信者たちは天に上り、信者として何をしたかに従ってさばかれます。そして、あなたがたは、ただ報われるのです。冠、褒美。そして、あなたが信者として行ったことの中に、真実なよい志(こころざし)で行ったものでないものがあれば、それらのものは燃えるのです。あなたは救われますが、火の中をくぐるようにして助かるのだと、聖書は言います。あなたはそこに立って、恥じ入るでしょう。すべての信者たちのまっただ中で！あなたは彼らがひとりずつ、冠や褒美を受け取るのを見ます。そして、おそらく24人の長老たちのように、彼らがイエスの足元に冠を差し出す時、あなたには、主の足元に差し出すものが何もありません！信者は、「ああ、オレは地獄に行くのかな？それともオレは…」とはなりません。あなたは天国に行きます！しかし、あなたがいま、生きている間に行うことは、あなたが天国に着いた時に何を受けるかを決定します。だから、真の信者は、天のことに熱心でなければならないのです。上にあるものを求めなければなりません。あなたが、どんな体験をするのか知っているなら、あなたが、どこに立つのかを知っているなら、あなたは誰と一緒に立つのか、すなわち、だれの前に立つのかを知っていれば、そうすれば、信者としての今のあなたの生き方は、全く異なるものになるでしょう。第2コリント5章10節。

なぜなら、私たちはみな、[「みな」と言ってください]みな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。

(第2コリント5章10節)

「ああ、信者は悪いことをしないとと思っていたよ」ご冗談でしょう。人数を数えたくはありませんが、お伺いします。「皆さんは、信者として一度も悪いことをしたことがないですか？」私は人数を数えていませんよ。なぜなら、手を上げようとした人がいたら、その人は、うそつきです。すると、それは、その人は悪いことをした、と言うことになります。

4つ目に私たちが待ち望むべきものは、イエスが再び来られることです。私たちのためにではなく、私たちと一緒に！「チョット待ってください。私は、主は私たちの所に戻ってくるのだと思いました」

はい、そのとおりです。そして牧師たちは再臨をここで待つようと、教会に間違った教えをしています。それは間違っています！再臨の時には、ここにいない方がいい！聖書に書かれています。キリストが最初に来られたのは、なんのため？あなたを救うためです。再臨は救いのためではなく、さばきのためです。彼の口から出て来るものは、な

んですか？火の剣です！なんのために？焼き尽くすため！私はいつも言っています。イエスが2度目に戻って来られる時、あなたは彼の顔を見ない方がいいですよ。あなたが見たいのは、主の背中です。馬に乗って、彼の後ろに従った方がいいですよ。（正面から）彼を見る人にはならない方がいい。
ゼカリヤ14章5節。

私の神、主が来られる。すべての聖徒たちも主とともに来る。（ゼカリヤ14章5節）

マタイ25章31節から32節

人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。そして、すべての国々の民が、その御前に集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼らをより分け…。
(マタイ25章31節から32節)

イザヤ40章15節から17節

見よ。国々は、手おけの一しづく、はかりの上のごみのようにみなされる。見よ。主は鳥々を細かいちりのように取り上げる。レバノンも、たきぎにするには、足りない、その獣も、全焼のいけにえにするには、足りない。すべての国々も主の前では無いに等しく、主にとっては、むなしく形もないものとみなされる。
(イザヤ40章15節から17節)

ここにいる人たちは、みんな、彼に敵対しているからです。彼らはなんでもありません。
ヨエル3章1節から3節。

見よ。わたしがユダとエルサレムの捕らわれ人を返す、その日、その時、わたしはすべての国民を集め、その所で、彼らがわたしの民、わたしのゆずりの地イスラエルにしたことで彼らをさばく。彼らはわたしの民を諸国の民の間に散らし、わたしの地を、自分たちの間で分け取ったからだ。彼らはわたしの民をくじ引きにし、子どもを遊女のために与え、酒のために少女を売って飲んだ。（ヨエル3章1節から3節）

患難時代を通じて、イスラエルの民には恐ろしいことがなされるでしょう。そして、神はそのことのために、諸国をさばかれます。もうひとつは、結婚の祝宴の招待客です。マタイ22章1節から14節。それについては、詳しくお話しませんが、あなたは招待客ではなく、花嫁になる方がいいですよ。もしも？あなたは結婚式を見る人ではなく、花嫁になった方がいいんです。患難時代の聖徒たちと教会を区別する唯一のもの、旧約聖書の聖人から区別するもの、あるいは、千年王国の間に信仰を持つようになる人たちから区別するもの、花嫁になる唯一のグループは、教会だけです。天国で、結婚している唯一のグループは教会です。あなたは、それになるべきです。イザヤ9章7節。

その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。
(イザヤ9章7節)

ゼカリヤ14章16節から19節は、イエスがこの場所に戻ってきたときになさることについて語っています。そして、いうまでもなく私たちは新しい天、新しい地、新しいエルサレムを待ち望んでいます。

「新しい天と新しい地とは、どういう意味だ？この地球はなくなるというのか？」

ええ、そうですよ。主は、すべてのものを新しく造られます。

「ええー！？今、ちょうど庭の手入れをしたばかりなのに！」

すみませんね。あなたが新生した信者だったらいいですけど。神があなたのために、大きな住まいを準備されているのですから。あなたの庭なんか比べものになりません。

回復。神は、すべてのものを元来の状態に戻されます。

黙示録21章23節。エルサレム、新しく来るエルサレムは、ミズーリ州には来ないですよ。それは…、どこかになければなりません。そうになったら、もうミズーリ州は存在しません。そうですよ。昨日、ある人が言ったんです。私のところ、いや、私のチームの人のところに来て、「新しいエルサレムはミズーリになる」と言うのです。私の反応は…（うーん…）私は、ミズーリに対してなんの恨みもありません。しかし、（ミズーリの）皆さんは、新しいエルサレムではありません。フィリピンのミンダナオ島、ダバオ市に、ある場所があります。そこには、自分が「約束された神の御子」だと決意した牧師がいます。彼は、そこに新しいエルサレムを建てました。そして彼には100万人の信奉者がいるのです。黙示録21章23節。

都には、これを照らす太陽も月もいない。というのは、神の栄光が都を照らし、小羊が都のあかり[メノラ]だからである。（黙示録21章23節）

新しいエルサレムは…、いいですか、人々は私のところに来て言います。「あなたは地球が平面だと思いますか？」私は言います。「いい？地球は平面ではないよ。今はね」本当です。私は知っているのです。私はひとつの都市から飛び立って世界中を旅し、戻りました。それは平らではありません。しかし、もしかしたら、いつか神がすべてのものを新しくされるとき、それは平らになるかもしれません。けれども、あなたはイエスを信じ、救われて、御霊に満たされていないければ、地球が平面であるかどうかを見ることはできません。

「どういう意味だ？」

あなたは地球平面説を信じていますか？イエスを信じて、発見してください。黙示録21章。もう、見ましたね。創世記1章3節。

神が『光よ。あれ。』と仰せられた。すると光ができた。（創世記1章3節）

それはどういう意味ですか。それは、太陽、月、星が造られる前に光があったことを意味します。3節は、太陽が造られる前です。これは第1日目です。太陽は第4日目に造られました。それは、その前に光があったことを意味します。世界の光はだれでしたか？「わたしは世の光だ」と言ったのはだれですか？イエスは、そこにおられました。彼が光でした。そして新しいエルサレムでも、彼は再び光になります。詩篇72編。私はときどき、英語で聖書を読む皆さんのことをかわいそうに思います。なぜなら、皆さんは本当にたくさんのことを見落としているからです。詩篇72編17節。「彼の名はとこしえに続き、その名は日の照るかぎり、いや増し、」「日の照るかぎり」ではなく、ヘブライ語では「太陽より以前」です。「人々は彼によって祝福され、すべての国々は彼をほめたたえますように」皆さんの聖書に書き入れてください。「かぎり」ということばに横線を入れて、「以前に」と入れてください。黙示録22章3節から5節。

もはや、のろわれるものは何もない。（黙示録22章3節）

その罪は消えました。覚えておいてください。

神と小羊との御座が都の中であって、そのしもべたちは神に仕え、神の御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の名がついている。もはや夜がない。神である主が、彼らを照らされるので、彼らには、ともしびの光も太陽の光もいない。彼らは永遠に王である。（黙示録22章4節から5節）

すばらしい約束ではありませんか？いいでしょう。ですから、あなたが望むなら…。もしあなたが空中でイエスと会い、彼から冠を受け、戻ってきて、主と一緒に統治し、そして最終的に、その美しい都市、新しいエルサレムに住むことを望むなら、彼がメノラである場所に…。今日、あなたは彼（イエス・キリスト）を選ばなければなりません。なぜなら、パウロがコロサイ人たちに言ったように、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。あなたが信者でないなら、あなたには、それらのことを理解することさえできません。あなたの心は、それらのものを求めていませんから。

お父様、今朝、お祈りします。私たちは目を閉じ、頭を下げ、今日のこのメッセージが、何人かの人々の心に触れ、それによって彼らが今朝、あなたに引き寄せられたことをお祈りします。私たちは、全員目を閉じ、頭を下げたまま、お祈りします。今日、羊の群れの中に戻ってくるか、あるいは人生で初めて信じることを決意した方がいれば、そのような人がいたら、だれも見ていません。だれにもあなたを見ることができません。私たちは目を閉じ、頭を下げています。もし、ここにいらっしゃるなら、手を上げていただけますか？私だけにしか分かりません。

お父様、本当にあなたに感謝します。今朝、あなたの御名を祝福します。あなたのみことばが、決して無駄に戻って来ることはないということを知っています。

あなたに感謝し、イエスのお名前であなただけを祝福します。

アーメン。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.03.04 (Wed)